

共生社会システム研究 執筆要領

2024年12月改訂

1. 原稿の種類と分量制限

以下の原稿の執筆には、書評の場合を除き、必ず既定の書式ファイル(manuscript_template.docx)をそのまま用いること。

- 1) 論文 書式ファイルにて16ページ以内
英文またはその他の外国語原稿の場合、25枚以内
- 2) 資料 書式ファイルにて8ページ以内
- 3) 短報 書式ファイルにて8ページ以内
- 4) 研究ノート 書式ファイルにて8ページ以内
- 5) 研究動向 書式ファイルにて12ページ以内
- 6) 総説 書式ファイルにて12ページ以内
- 7) 書評 書式ファイルの場合4ページ以内、あるいは総字数4000字以内

和文原稿の場合、上記の分量には、表題(和文・英文)、和文キーワード、図表を含むが、要旨(和文・英文)、英文キーワードは含まない。

英文その他の外国語原稿の場合、上記の分量には、英文その他の外国語の表題とキーワード、図表を含むが、英文要旨、和文表題、和文要旨、和文キーワードは含まない。

2. 原稿の作成・提出

- 1) 書評を除くすべての和文原稿には、以下のものを順に記載する。[表題(和文)・表題(英文)・5語程度のキーワード・本文・注・文献(以上すべて和文)・300単語以内の要旨(英文)・5語程度のキーワード(英文)・800字以内の要旨(和文)](原稿は匿名で審査されるため、個人情報には載せないこと。謝辞等は、審査終了後に記入する。)
- 2) 書評の場合は、以下のものを順に記載する。[表題(和文)・著者名(和文)・著者名(英文)・所属(和文)・所属(英文)・本文]
- 3) 英文その他の外国語原稿は、以下のものを順に記載する。[表題・5語程度のキーワード・本文・注・文献(以上すべて英文その他の外国語)・300単語以内の要旨(英文)・表題・800字以内の要旨・5語程度のキーワード(以上すべて和文)](原稿は匿名で審査されるため、個

人情報は載せないこと。謝辞等は、審査終了後に記入する。)

- 4) 図表は、審査が終了するまでは、本文中に直接挿入する。図表は、各図、各表ごとに別紙とする。図・表ごとにそれぞれ、図1、表1のように通し番号を付す。一つの図・表が複数の部分に分かれる場合には、a、bを付し、本文では図1-aのように言及する。
- 5) 審査終了後に提出する原稿においては、図表は、各図、各表ごとに別紙とし、1枚ごとに番号、表題、説明文、注、出所を記入する。また、本文の原稿の余白に図表の挿入位置を示す。
- 6) 投稿票には以下の項目を記載する。[原稿の種別・表題(和文)・表題(英文)・著者名(和文)・著者名(英文)・所属(和文)・所属(英文)・(学生の場合指導教員名)・原稿、書類のやりとりに使用する住所・メールアドレス]
- 7) 日本人などの執筆者名のローマ字表記は、Shozo TANAKA のように記す。
- 8) 英文表題の最初の1文字は大文字で始め、それ以降は冠詞、前置詞、接続詞を除き、各単語の最初の1文字を大文字で表記する。英文の副題との区切りにはダッシュ(—)は用いず、コロン(:)を置く。

3. 本文

- 1) 本文の構成は、節 [1. 2. …], 小節 [1) 2) …] の順の区分を原則とする。
- 2) 注は、本文中に(注1)(注2)…と記し、各論文末尾、引用文献の前にまとめる。
- 3) 単位は、℃, km, %, km² のような一般的な記号があるときは、それらの記号を用いる。
- 4) 句読点は、マル「。」とカンマ「,」を原則とする。
- 5) 算用数字や欧字などは、1字のみの場合を除き、半角とする。
- 6) 数字は1億2,345万のように記す。
- 7) 年次は西暦で表す。ただし、日本や中国などに関する歴史的記述などでは、必要に応じて1782(天明2)年のように年号を併記してもよい。「天明年間」「明治初期」などのように年号による特定の時期の表現が必要な場合には、なるべく初出の際に、対応する西暦を括弧書きで付記する。その際「1810年代」「19世紀初め」のような概略の表現でもよい。
- 8) 本文中の文献参照は、「著者姓(西暦年号)」, 「(著者名 西暦年号)」, または「(著者名 西暦年号, p(pp). ページ番号)」で示す。その際著者が1名の場合は、Bateson (2000), (Bateson 2000), (Bateson 2000, pp. 310-311), 2名の場合は、Hardt と Negri, (2000), (Hardt and Negri 2000) 等, 3名以上の場合は、Beck 他 (1994), (Beck *et al.* 1994), とする。和名の場合、矢口・尾関 (編) (2007), (矢口, 尾関 (編) 2007) 等とする。
- 9) 翻訳書を参照する場合、著者名はカタカナ等で表記する。原典の出版年を記載する場合は、

ポラニー (1975 (1957), pp. 3-5), (ポラニー 1975 (1957), pp. 3-5) 等とする。

- 10) 直接引用には、「」を用いる。本文などで直接言及する書名には『』（欧文はイタリック）、論文名には「」（欧文名は“ ”）を用いる。

4. 文献一覧

- 1) 参照した文献は著者姓のABC順に稿末に一括記載する。その際、下記の例示に従って、著者名・出版年・タイトル・(雑誌名)・出版社・(出版地)・開始ページと終了ページの順で記載すること。また、欧文の場合、論文名はダブル・クォーテーション (“ ”) で囲み、著書名はイタリック(斜体字)で記載すること。

古沢広祐. 2017. 「〈地域〉・〈農〉の再生と共生社会のこれから」『共生社会システム研究』11.1, pp. 30-41.

荒木和秋. 2016. 「自然共生型酪農による日本酪農の構築」尾関周二, 矢口芳生 (監修), 古沢広祐, 津谷好人, 岡野一郎 (編)『共生社会Ⅱ—共生社会をつくる—』東京, 農林統計出版, pp. 185-200.

尾関周二, 矢口芳生 (監修), 亀山純生, 木村光伸 (編). 2016. 『共生社会Ⅰ—共生社会とは何か—』東京, 農林統計出版.

Rawls, J. 1958. “Justice as Fairness,” *Philosophical Review*, 67, pp. 164-194.

Bourdieu, P. 1977. “Cultural Reproduction and Social Reproduction,” in J. Karabel and A. H. Halsey (eds.), *Power and Ideology in Education*, Oxford, Oxford University Press.

Boldrin, M., and D. K. Levine. 2008. *Against Intellectual Monopoly*, Cambridge, Cambridge University Press.

- 2) 翻訳書の原典を記載する場合は以下の例に従う。

カステル, M. 2009. (矢澤修次郎, 小山花子訳), 『インターネットの銀河系: ネット時代のビジネスと社会』東信堂. (Castells, M. 2001. *The Internet Galaxy: Reflections on the Internet, Business, and Society*, Oxford, Oxford University Press.)

- 3) 同じ著者の文献は発表年の順に並べる。同じ発表年のものが複数ある場合には、引用順に a, b, …を付して並べる。
- 4) 筆頭著者が同じである連名著者の文献の場合には、著者名の少ない順に並べる。著者が3人以上でも全著者を列記する。